

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語 27人

② 算数 27人

③ 理科 27人

5 留意事項

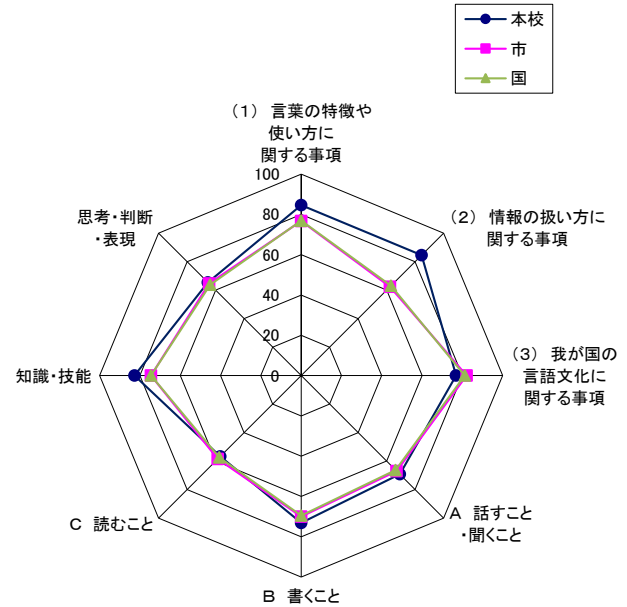
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	84.6	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	84.6	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	76.9	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	69.2	67.0	66.3
	B 書くこと	73.1	70.0	69.5
	C 読むこと	56.7	58.6	57.5
観点	知識・技能	82.7	74.5	74.5
	思考・判断・表現	65.4	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

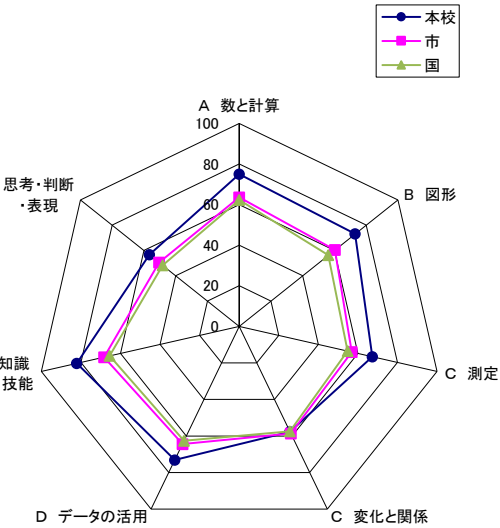
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市や国より高い。 ○「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より高い。これは、学習の中で繰り返し漢字の用法に触れてきた成果である。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後も漢字を正しく用いる力を伸ばしていけるよう、学習の中で意図的に触れるようにする。
(2) 情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市や国より高い。 ○「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より高い。	・今後も図などによる様々な関係の表し方に触れ、考えを明確にしたり思考をまとめたりする学習を積み重ねていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市や国より低い。 ●「時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より低い。	・読書活動や調べ学習で本に触れる機会を十分に確保し、語彙を増やしていけるようにする。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、市や国より高い。 ○「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より高い。これは、国語の授業だけでなく、他教科にわたり、他者の話の内容の概要をとらえる学習を積み重ねてきた成果である。 ●「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より低い。	・今後も国語の授業だけでなく他教科にわたり、話し手が伝えたいことを考えながら聞いたり、相手に伝わるように話したりできるような場を意図的に設定していくようにする。 ・自分がインタビューする目的を意図に応じて、集めた材料を分類し、聞くことを具体的に考える課題を設定していく。
B 書くこと	平均正答率は、市や国より高い。 ○「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より高い。 ●「書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつつたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より低い。	・今後も目的や意図をはっきりさせて、資料を適切に使いながら自分の考えを表現する活動を積極的に取り入れていく。 ・説明文などの段落相互の関係を考えながら読んだり、書く内容の中心を明確にし、文章構成を考えて文を書いたりする学習に取り組んでいく。
C 読むこと	平均正答率は、市や国より低い。 ○「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より高い。文章の叙述を正しく読み取る経験を重ねてきた成果である。 ●「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より低い。	・今後も、叙述の内容を正しく読み取り、図や言葉でまとめ表現する活動を意図的に設定していく。 ・絵や図、表、地図などが含まれた教材を使い、文章との関係を考える力を育てるようにする。

宇都宮市立雀宮東小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	75.0	63.6	62.3
	B 図形	73.1	60.4	56.2
	C 測定	67.3	56.9	54.8
	C 変化と関係	57.7	58.6	57.5
	D データの活用	73.1	64.4	62.6
観点	知識・技能	82.1	68.3	65.5
	思考・判断・表現	56.6	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

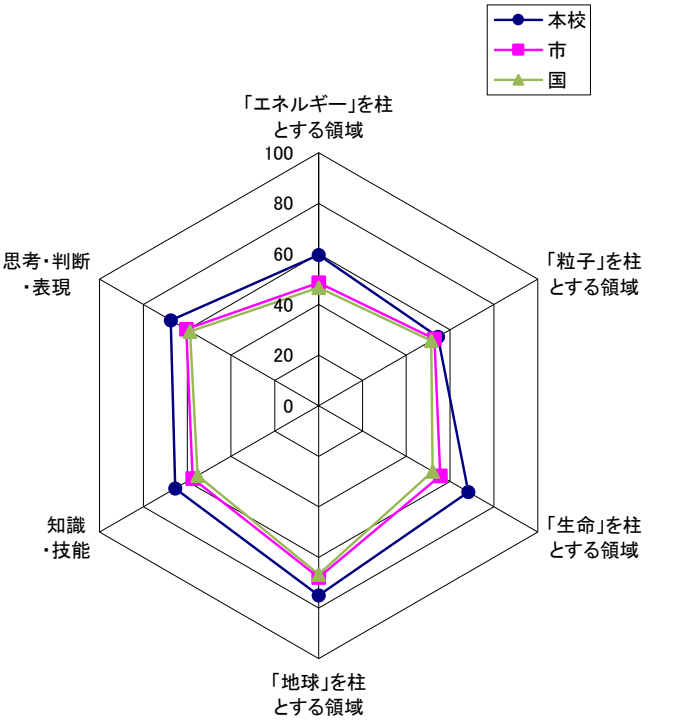
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、市や国より高い。 ○「小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より高い。 ○「数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より高い。 ○「異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より高い。 これは、既習の計算や分数の意味、性質をもとに、図や式などを用いて考え、計算のしかたを理解してきた成果である。 ●「示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率よりやや低く、課題が見られる。	○今後も、末尾の位がそろっていない小数の加法を、数の構成や位取りの仕組みを基にして計算していけるように、多くの問題に取り組むようにする。 ●分数の意味や表し方についての復習を十分に行う。それを踏まえて、数直線上に示された数を分数で書いたり、分数を数直線上に示したりする経験を多く積ませ、さらに理解を深めさせていく。 ●異分母の分数の加法の計算の仕方について、よく理解できている。今後も、通分の仕方の間違いに留意しながら、正確に計算をする練習に取り組ませていく。 ●必要な情報を選び、数量の関係を式に表すことについて、示された資料をしっかりと捉えること、また必要な情報を的確に選ぶことの練習を繰り返し行わせていく。
B 図形	平均正答率は、市や国より高い。 ○「平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より高い。これは、いろいろな四角形をコンパス等を用いて作図し、それぞれの定義や性質についての理解の定着を図って来た成果である。 ○「角の大きさについて理解しているかどうかをみる」問いでは、国の正答率より高い。	●回転した量としての角の大きさの意味や角の大きさの測定の仕方の復習を行い、さらに理解を深められるようにする。
C 測定	平均正答率は、市や国より高い。 ○「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より高い。 ○「はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より高い。	●数量の変化の規則性が捉えやすい簡単な場面の問題から取り組み、必要な数量を見出すことや式に表すことに慣れていくようにする。 ●ものさしや数直線の読み取りの仕方を踏まえながら、はかりを用いて実際に重さを測る経験を多く設定するようにする。
C 変化と関係	平均正答率は、市よりやや低く、国とほぼ同じ。 ○「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出すことができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より高い。 ●「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より低く、課題が見られる。	●問題場面の中の伴って変わる数量やいつも変わらない数量を問いに合う必要な数量を見いだせるようにする。 ●割合の求め方と、百分率(%)の意味や表し方について、復習する機会を設ける。また、日常生活の中に割合や百分率が数多く使われている身近な事象の問題を取り入れ、理解を深められるようにする。
D データの活用	平均正答率は、市や国より高い。 ○「簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より高い。 ●「棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より低く、課題が見られる。	●表の見方や活用の仕方を身に付け、また様々な種類の表に慣れることができるように、算数の授業だけではなく、他教科においても取り扱っていくようにする。 ●棒グラフの読み方や活用の仕方について、復習する機会を設け、再確認をする。また、身の回りに棒グラフをはじめ、多くのグラフが使われていることに目を向けさせ、各教科等でそれぞれのグラフの特徴を生かし、活用する機会を増やしていく。

宇都宮市立雀宮東小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	59.6	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	54.5	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	68.3	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	75.0	67.9	66.7
観点	知識・技能	65.4	57.5	55.3
	思考・判断・表現	67.5	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市や国より高い。 ○「乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。これは、実際に器具を操作する経験を積みながら、基礎的実践の理解の定着を図ってきた成果である。	・実験の授業において、知識として覚えるだけでなく、実験を通して「なぜそうなるのか」という因果関係を自分で見付け、表現する機会を設定し、理解を深められるようにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市や国より高い。 ○「水の蒸発について、温度によって水の状態が変化する」という知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる」問いでは、問いでは、県の正答率より高い。 ●『「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より低く、課題が見られる。	・図や表を用いてノートにわかりやすく実験結果をまとめられるよう支援していく。 ・分かっている知識について改めて整理したり、理由や根拠について考えたことを説明したりすることで、自分の言葉で予想を表現することができるようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市や国より高い。 ○「レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。これは、発芽について、実験結果をもとに条件を関係付けて考察し、ノートにまとめながら理解を深めてきた成果である。	・1人1台端末を活用して、調べ学習の機会を意図的に設定し、児童の興味の幅をさらに広げ、知識を深められるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市や国より高い。 ○「赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。	・実験の実施や映像資料の活用を通して、事実を視覚的に確認し、理解をより深められるようにする。 ・実験結果をもとに、共通点と相違点について、話し合う活動を設定することで、理解を深められるようにする。

宇都宮市立雀宮東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答した児童の割合は(96.4%)で、全国の平均を18ポイント以上上回った。様々な場面において話し合い活動の充実を目指し、授業の中で積極的に話し合い活動を取り入れてきた。また、考えを深めたり、広げたりすることができるよう、話し合いの効果的な場面や方法について研究してきた成果であると考えられる。今後も、指導を継続し、より効果的な話し合い活動となるよう高めていきたい。
○「学校に行くのは楽しいと思う」と回答した児童の割合は(96.5%)で、全国の平均を10ポイント上回った。すべての児童にとって、楽しく充実した居がい感のある学校を目指し、教師と児童の関係、児童同士の関係構築に力を入れて指導してきた成果であると考えられる。今後とも学校が楽しく充実した居がい感のある場所となるよう、児童に寄り添った指導を続けていきたい。
○「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と回答した児童の割合は(96.4%)で、全国の平均を15ポイント以上上回った。高学年としての意識をもち、学校をよくするために活動したい意欲が育ってきていることがわかる。学校内外において、児童にとって身近なところから課題を見付け、探究型の学習を取り入れることで、意欲を具体的な実践へとつなげられるようにしていきたい。
○「国語の授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合は(100%)で、全国の平均と比べて17ポイント以上上回った。また、「国語の授業で、目的に応じて簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いている」と回答した児童の割合は(92.9%)で、全国の平均と比べて11ポイント以上上回った。毎時間の学習のまとめや振り返りなどで、自分の考えを書いたり、家庭学習や授業において、学年に応じた学校指定の用紙に日記や作文を書いたりして、書く力を養ってきた成果が出ていると考えられる。
●「算数の勉強が好き」と回答した児童の割合は(50%)で、全国の平均と比べて7ポイント下回った。「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した児童の割合は(100%)で、全国の平均と比べて8ポイント以上上回った。個別指導や少人数指導の時間を確保したり、教材や教具の工夫を行ったりすることで、児童にとって分かりやすい授業になるよう改善を図っていく。また、スモールステップで達成できる簡単な問題を適度に用意し、成功体験の積み重ねることで、算数への自信と意欲を高められるようにしたい。

宇都宮市立雀宮東小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・日記、作文指導	・朝の学習で、テーマを決めて作文を書いたり、自分の文章を推敲したりする時間を設定している。 ・家庭学習で、学年に応じた学校指定の用紙に、日記や作文を書く課題を出している。	・今回の調査では、3教科とも記述式の問題において、市や県、全国の平均点を上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語の「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる」ことについて課題が見られた。	図表と文章を組み合わせた教材の活用	・絵や図、表、地図などが含まれた教材を使い、文章との関係を考える機会を設定し、定着を図るようにする。